

令和元年度 唐津市立海青中学校 学校評価結果

1 学校教育目標 「感謝の心を持ち、自立に向かう生徒の育成」 ～ みんなが楽しい学校に～	2 本年度の重点目標 (1) 授業改善を図り、学ぶ生徒の育成 (2) 自分から挨拶ができる生徒の育成 (3) 安心して、学び生活できる集団を作る生徒の育成 (4) ボランティア精神にあふれた生徒の育成 (5) 部活動の活性化
---	--

達 A: ほぼ達成できた
B: 概ね達成できた
C: やや不十分である
D: 不十分である

3 目標・評価

① 学ぶ意欲の育成・習慣化に努め、学力の向上を目指す。

領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	達成度	成果と課題 (左記の理由)	具体的な改善策・向上策
学校運営	○系統性・連関性のある教育課程の編成	・有効な教育課程の作成 ・授業時数確保と行事等諸活動の適切な組み方	・生徒の実態に応じ、基礎基本の定着と活用の向上を念頭に置いた年間のカリキュラムを作成する。 ・規定の授業時間数を確保する。	・学期ごとに年間計画を見直し、生徒の実態に応じた学習内容であるか検討し、修正・改善を加えていく。 ・2週間先の週案を回覧し、行事・教育活動に見通しを持って取り組めるようにする。	B	・週案の中に各学級・各教科の授業時数累計を入れ回覧し、授業時数の確保に努めた。また、出張等での授業入れ替えにとどまらず、急な年休でも自習にせず、授業時間の確保に努めた。	・授業時数の確保については、生徒の実態を考慮した行事の精選を行い、教育課程の検討を続ける。 ・道徳の指導と評価について研修を行うとともに、人権・同和教育の視点ですべての教育活動を見直す。
教育活動	●志を高める教育	・自らの夢や目標の実現に向けて努力する気持ちや高められる教育活動の推進	・自らの夢や目標の実現に向けて努力する気持ちがあるか答えられる生徒の割合を県平均以上に引き上げる。	・全ての教科等、学校行事等を通して、夢や目標について自ら考えさせる時間や場面を設ける。	B	・将来への目標を持っている生徒は県平均より1年生は2.1ポイント高く、2年生は13.2ポイント低い。学年による差が大きい。	・様々なキャリア教育を行うが、その根底に「人の役に立つ人間になりたい」という気持ちを育てることが大切であると考えて、教育活動を実践する。
	●学力向上	指導方法の改善	・諸調査における無回答を減らす。 ・諸調査において対比や到達目標への達成率を前年度より1P以上向上させる。	・授業実践の方法を研究し、互いに授業公開をしながら生徒の成長の段階を全職員で観察し、それを受けてより良い指導法を模索する授業研究会を開催する。 ・授業の中で「学びあい」を進めるために、教師の説明する時間を減らし、生徒が主体的に活動する時間をしっかりと保障する。 ・生徒の力を引き出す視点で授業づくりを進め、質の高い課題に挑戦する場面を授業の中に設定する。	C	・12月の県学習状況調査で、おおむね達成の到達率を上回った教科は国語(1年、2年)と英語(1年)だけであった。授業での取り組みが、家庭学習とリンクした取組とならなかったことが大きな要因と考えている。	・課題は、家庭学習と授業のリンクが不十分であることである。成績の伸びが見られなかった3年生の数学では、家庭学習の課題が授業中の課題であり、家庭学習でできなかった課題(問題)等を授業中にグループ学習等を通して解決するという基本的なスタイルで、大幅な成績の伸びと学習意欲の向上が見られた。それに対して、答えを丸写ししてしまう状況等が他学年・他教科でもあったため、生徒の意欲を奪い、成績の伸びを大きく阻んでいたと考えられる。そこで、家庭学習と授業のリンクを意識した春季休業中の課題設定の取組を今年度内から行っていく。

② 生徒理解に徹した積極的な生徒指導・教育相談の確立に努め、人権教育を充実させ、特別支援教育に対する意識も高める。

領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	達成度	成果と課題 (左記の理由)	具体的な改善策・向上策
学校運営	○特別支援教育の充実	・教員の専門性と意識の向上	・特別支援教育に関する研修会を行い、教員の専門性を向上させる。 ・ケース会議などを充実させ、支援の在り方、支援の方向性を見据えて適切に支援できる教員を増やす。	・それぞれの生徒に対して適切な対応ができるように、専門的知識を習得する研修を行う。 ・支援が必要な生徒の情報を共有し、該当生徒に対してケース会議を開いて、すべての教員が対応できる環境を整える。	B	・特別支援教育に関しての特設の研修会は、今年度3回行っている。ケース会議に相当する巡回相談も2回行い、教職員の専門性を高め、生徒にとってよりよい環境を整えようと努力してきた。	・達成度をAとしても良いところであるが、特別支援が必要な生徒が全員がいきいきと学校生活を送っている状況ではなく、まだまだ課題がある。支援が必要な生徒の情報を共有し、該当生徒全員がいきいきと学校生活を送ることが出来る環境を整える。
教育活動	○生徒指導・教育相談の確立	・生徒指導の重点指導方針を活かした自己指導力の育成 ・個に応じた支援の推進	・自分から挨拶をするように心がけている生徒の割合を60%以上に引き上げる。 ・自分のことが好きだと答える生徒の割合を60%以上に引き上げる。 ・先生に困ったことや悩みを相談できると答える生徒の割合を60%以上に引き上げる。	・配慮を要する生徒について、インシデントプロセスの手法を用いて対応を検討し、実践する。 ・生徒会と連携し、生徒の主体的な活動を位置づける。 ・生徒教育目標を意識し、みんなが楽しいとは？という問いを生徒に返しながらかつ職員で、生徒同士・生徒と教師が繋がり、互いに尊重し合う態度を育成する。 ・グループ学習による「繋がる」授業実践を行う。 ・整然とした環境の中で育まれる、安定した生活習慣と規範意識の醸成を目指す。 ・毎朝のあいさつ運動を実施する。	C	・自分から挨拶するように心がけている生徒は、50%を超えた。 ・自分のことが好きだと答えた生徒は、14.2%にとどまっている。 ・先生に悩みを相談できる生徒は32.0%にとどまっているが、昨年度から5.7ポイント向上している。 ・アンケート結果では、目標達成できなかったが、具体的な方策はすべて実践しており、目標設定が高すぎたか、目標と方策がミスマッチになっていると考えられる。	・実践していく方法・方策としては、手立てを講じている。もちろん質を高めることと時期を検討することなど課題もあるが、現在のやり方を継続していく。ただ、評価する指標の設定の方法を検討しなければと考えている。 ・いずれにしても、生徒指導の3機能を活かした教育活動を通じての教職員が実践できるよう研修を深めていかなければならない。
	●心の教育	・仲間づくりの推進 ・生徒の自主的な活動の推進 ・人権教育と情報モラル教育の充実	・学校行事・生徒会行事、係活動等に積極的に取り組んでいると答える生徒の割合を60%以上に引き上げる。 ・学校に来るのが楽しいと答える生徒の割合を60%以上に引き上げる。	・定期的にGWTやエンカウンターを取り入れ、互いを認め合う授業に取り組む。 ・生徒・教師・保護者による挨拶運動を実施する。 ・ボランティア活動を活性化させる。 ・人権教育講演会を開催する。 ・授業で情報モラル教育に取り組み、個人情報や著作権など、生徒の正確な知識の向上を目指すことで、モラルアップにつなげる。	C	・学校行事に積極的に取り組んでいる生徒は、全校では54.1%であるが、3年生だけに限れば、64.1%であり、学年により差がある。 ・学校に来るのが楽しいと答える生徒も、全体では34.5%だが3年生では55.4%と学年を上げて高くなっている。 ・1年生は3つの小学校から集まってきて、10数人の小規模校から、学年70人を超える中規模の学校生活に慣れるのに精いっぱいと考えられる。	・具体的方策として計画していたものはすべて取り組んでいる。上記と同様、評価の質を高めることが必要であるが、評価指標の検討もしなければと考えている。 ・人権・同和教育に校区内3つの小学校と一緒に取り組んでいる。小学校との連携もさらに進めていきたい。
	●いじめ問題への対応	・全教育活動で「思いやりと笑顔」が見られる教育の推進	・「いじめは人権問題」という強い意識、「どの学校にもいじめはありうる」という認識に立って、生徒の言動に注意深く対応し早期発見に努める。	・年2回のhyper-QUの実施と分析・考察を行う。 ・いじめアンケートや日記・学活ノートを通して、早期発見や早期対応を適切に行う。	B	・早期発見に努め、現在17件(1年5件、2年9件、3年3件)のいじめを認知した。究極的にはいじめがない集団作りを目指しているが、発生初期で認知・認知して対応できるようにしたい。	・いじめを覚悟するための様々な方法はあるが、どんな方法をとっても教職員の高い意識がなければ対応できない。「どの学校にもいじめはありうる」という認識に立って、生徒の言動に注意深く対応し早期発見に努める教職員集団になるよう職員研修を進めたい。

③ 地域に根差した信頼される学校づくりに努める。

領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	達成度	成果と課題 (左記の理由)	具体的な改善策・向上策
学校運営	●業務改善・教職員の働き方改革の推進	・衛生管理の改善・充実	・職員室等の整理整頓を行い、仕事の効率化を図る。 ・校舎内外に花を飾り、環境美化に努める。 ・定時退勤日の実施率を50%とする。 ・学校集金会計支援により、学級事務の負担軽減を図る。 ・副担任・級外による支援協力により、担任の負担軽減を図る。	・職員作業により、長期休業を利用して、職員室等の整理整頓を図る。 ・生徒会とPTAと連携して、花いっぱい運動を推進し、校舎内外に花を飾り、環境美化を進める。 ・タイムマネジメントを行い、お互いに声をかけ、定時退勤日の確実な実施を行う。 ・校内LANを活用し、効率的な事務処理を行うとともに、教材の共有を図る。 ・職員が一致して指導にあたるために、マニュアルを作成して、徹底を図ると共に、心のチーム学年、チーム学校づくりを行う。	C	・校舎内外花いっぱい環境は明るくなった。 ・各学年間で協力し、仕事をチームで行う体制をとることができた。 ・登校から下校まで、職員が生徒の傍にいて、様々な指導を行っており、共感的な生徒指導を行うことが出来たが、職員の間で勤務時間は減らなかつたものの、年度末になるに従い、100時間を超える時間外勤務者(5月11名→1月2名)が減った。 ・メール等を利用して、情報共有を図ることが概ねできた。	・時間外勤務の縮減が喫緊の課題である。出来るだけ早く退勤できるよう仕事の割り振りを行うが、共感的な生徒指導を行うことで生徒との関係が少しずつ良くなり、結果的に時間外の指導時間が減っている。この流れを大切にしていきたい。
	○保護者・地域に信頼される学校づくり	・学校安全管理に基づく危機管理体制の整備 ・学校公開と情報提供の推進	・危機に際して組織的にスピード感をもって対応する。 ・各分掌部からも定期的な便りの発行をする。 ・携帯掲示板のアクセス数を1日あたり100以上に引き上げる。 ・学校教育目標の周知率を80%以上に引き上げる。 ・学校評価アンケートで評価を3.5以上とする。	・常に学校に関する情報収集を行う。 ・校内外の安全点検を計画的に行う。 ・適時、携帯掲示板を活用し情報を発信する。 ・保護者や地域の方が参加しやすい学校行事の工夫をする。 ・地域の文化や取組等を携帯掲示板、文化発表会等で発信する。	B	・携帯掲示板のアクセス数は、平均すれば1日当たり200~300以上であった。 ・学校評価アンケートでの全体の平均は3.1であった。 ・各学級の学級通信と学校だより「感謝」、携帯掲示板での情報発信を行った。学校だより「感謝」は、駐在員を通して地域の各戸に配付され、学校の様子を知らせることが出来た。	・携帯掲示板の活用をさらに充実させたい。 ・総合避難訓練を実施できたので、継続して防災意識を高め、危機管理体制を整備したい。
教育活動	○地域に貢献する活動の推進	・生徒の主体的な活動の促進	・生徒が自ら活動し、地域の方とのふれあいを大切にする。	・地域の各種行事や会合へ積極的に参加する。	B	・地域行事と部活動の試合等がバタニングすることが多かった。 ・部活動がないときには積極的に参加するよう働きかけた。 ・音楽部が各種イベントに参加した。	・地域の計画を早めに入手し、部活動の計画を調整出来るものについては、調整する。

本年度の重点目標に含まれない共通評価項目(あれば記入)

領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	達成度	成果と課題 (左記の理由)	具体的な改善策・向上策
教育活動	●健康・体づくり	・健康教育による自己の心身の健康管理の充実 ・精神面、技術面の向上を目指す部活動指導 ・感染症予防への取組	・[早寝、早起き、朝ごはん]ができている割合を85%以上に引き上げる。 ・病気がけがの件数が昨年度を下回るようにする。 ・持久力の数値を昨年度より引き上げる。 ・県大会に出場する部活動を増やす。 ・感染症の流行情報収集を素早く行い、早期対応により感染症の流行を防ぐ。	・「早寝、早起き、朝ごはん」の意識の大切さを多くの場面で意識させ、自己の健康管理に活かせるようにする。 ・生徒自身が、学校で起こりやすい病気がけが等を知り、予防できるようにする。 ・体育の授業や部活動を通して体力づくりを推進する。 ・県大会を目指す機運を高める。 ・保健室だより等を通じて感染症予防についての情報提供をするともに、学級活動等で感染症の流行を防ぐための方策について考えさせる時間を設け、生徒自らの健康管理意識を高める。	B	・部活動で県大会に出場した部も増えた。九州大会には、男子卓球部、相撲部が出場し、全国大会にも相撲部が出場した。 ・持久力は、変わらずであるが、地区駅伝大会で昨年度と比較し、大幅にタイムを男女とも更新し、男子は躍進賞に輝いた。 ・夏季休業中に全校生徒で駅伝練習に取り組めた。 ・溶連菌感染症に罹患する生徒は毎月一定数存在した。	・感染症の減少を含め、自己管理能力を高めさせる取り組みを今まで以上にしていかなければと考えている。 ・さらなる部活動の活性化を図るとともに、勝つだけでなく部活動をしている生徒の満足度を高める取り組みを職員で模索したい。

●は共通評価項目のうち必須項目、○は独自評価項目